

もろもろの悪心
なすなかれ
もろもろの善
奉行せよ
自ら心を浄むるは
これぞ諸仏の
教えなる
法句經一八三

お寺の掲示板

「最も大切なのは第三の『自ら心を浄むる』の一句であろう。」

『さいわいなるかな、心の清きもの、その人は神を見るべし』とイエスさまも示された。(中略)

また日本の神道の教えは、ただ清浄の二字につきると思う。もろもろの罪汚れ曲事まがことを払って、生まれたまの清浄な心になって日暮らしせよと、教えられるのである。」

『法句經 真理のことば』 山田無文老師 春秋社

實相寺 花園會報

令和七年
一月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>
第189号

いま、ここを生きたるしあわせ

少水魚有樂

令和7年
4月1日より
遠諱団参
開始

正当法要
令和9年3月28日

興祖微妙大師
六百五十年遠諱大法会

年賀状はご遠慮致しました

誠に勝手ながら、諸般の状況を鑑み（郵便料金値上げ、輸送人員不足、資源の有効利用）、今年から年賀状の奉呈はご遠慮致しました。何卒、ご理解の程、お願い申し上げます。

興祖微妙大師遠忌団参

来たる令和9年3月に微妙大師の正当法要が行われますが、当日の参拝者数は制限されている為、令和7年4月より約2年間、遠忌団参としての受付がはじまります。

コロナ禍以降、しばらく本山団参は実施していませんでしたが、令和7年〜8年の間、少なくとも一回は實相寺花園会としての団参を実施したいと思えます。企画はこれからですが、皆様のご参加を宜しくお願い致します。

「小水の魚に楽しみ有り」
タイトルは妙心寺二世授翁宗弼
禅師・微妙大師のお言葉です。

『法句経』「無常品」に「壽百歳
と雖も亦た死は過ぎ去る。老と為
り厭う所、病條の至際、是の日已
に過ぎる。命は則ち隨滅し、少水
の魚の如し、斯に何の楽しみ有ら
ん」という一節があります。

要約すると「たとえ百歳生きた
としてもいずれば死が訪れる。老
人になり病にかかり、また一日が
過ぎ去ろうとしている。残された
寿命は減るばかりで、まるで残り
少ない水の中にいる魚のようでは
ないか。ここに何の楽しみが有る
だろうか」という意味です。

この『法句経』の一節を踏まえ
て書かれたと思われるのが、微妙
大師の「小水の魚に楽しみ有り」
という墨蹟です。古い短い人生
に一体何の楽しみが有るとい
うのでしょうか？そこに微妙大師のお
人柄が表れている気がします。

微妙大師は永仁4年（1296）
に藤原宣房の子として生まれた万
里小路藤房だと言われます。幼い
頃から学問を好み、後醍醐天皇の
忠臣として有名です。しかし鎌倉
討幕の後、武家への論功行賞を再
三讒言しますが、天皇は聞き入れ
ず内裏の新築に夢中です。嫌気が
さした藤房は39歳の時、出家して
行方をくらまします。これが微妙

大師ではないかとされています。
授翁宗弼という僧名は大灯光師
より授かりました。授翁は約20年
間各地を行脚しますが、その間に
大灯光師は示寂。その法を嗣ぐ無
相大師に参禅した時、授翁は既に
56歳になっていました。その指導
は厳格を極めたと言われますが、
61歳の時に大悟します。数年後、
無相大師は亡くなり、65歳の授翁
は妙心寺二世となりました。

開山無相大師という方は、修行
には厳しいものの、お寺の管理運
営には無頓着でした。雨漏りも気
にせず、親戚の者が修理を申し出
ても断ったとの逸話も残ります。
恐らく授翁禅師がいなければ、今

日の妙心寺は存在していなかった
可能性が高いのです。また85歳で
亡くなるまでに4人の弟子を育て、
草創期の妙心寺を確立しました。
そこで妙心寺派では昭和天皇か
ら賜った「微妙大師」という大師
号に、妙心寺の興隆に多大な功績
があったということで「興祖」の
尊称を加えて「興祖微妙大師」と
お呼びしています。

「人間五十年」と言われた時代に
39歳で出家し、65歳で住職となり
寺を護持し、後継者を育てた。こ
の微妙大師の生き方こそが「小水
の魚に楽しみ有り」だったのだと
思います。来たる令和九年三月、
六百五十年の御遠忌が営まれます。